

東京方面からのアクセス

東北新幹線をご利用の場合

東京～新青森	約3時間20分
東京～八戸	約3時間
東京～盛岡	約2時間20分
東京～仙台	約1時間30分
東京～福島	約1時間30分

飛行機をご利用の場合

羽田空港～青森空港	約1時間20分
羽田空港～三沢空港	約1時間20分
成田空港～仙台空港	約1時間



東北(太平洋沿岸)・日本

教育旅行 ガイドブック 2021

Educational Travel Guidebook 2021



「もう一つの日本 それは、東北」

～山の彼方にある美しい四季と歴史文化、
食文化を探訪する～

「東北」は日本の本州北東部に位置する地域。青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島の6つの県で構成され、真ん中を背骨のように走る奥羽山脈の東西で、太平洋側、日本海側に分かれます。

「みちのく(道の奥)」とも呼ばれるこの地域は、美しい自然や豊かな食、独特の歴史・文化など、古き良き“日本の原風景”が残る地域である。春の桜のシーズンは、福島から青森まで約1ヶ月間楽しむことができる。夏は各地域でお祭りが開催され、東北が熱くたぎる時期を迎える。秋は東北の山々が色づき、各地域で美しい紅葉の景色を楽しめることができ、美味しい食べ物の収穫時期を迎える。冬は東北地方ならではの良質なパウダースノーでウィンタースポーツを体験できる。

四季折々の異なる楽しみがある東北は、アクセスも良好であり、東北最大都市宮城県仙台市までは東京から東北新幹線で約1時間半、東北の北端である青森までは約3時間と交通網も整備されている。東北6県では空港も整備されているので、アクセスも非常に便利である。

東北には「ここ」でしか
体験できない学びがある。

東北が「教育旅行の目的地」として、注目を浴びている。これは、東北の四季が織りなす東北の宝の体験の他に、あの東日本大震災を経験したからこそ伝えられる「生命教育」があるからである。

本ガイドブックでは、震災で大きな被害をうけ、そこから復興へと歩んでいる太平洋側4県(青森・岩手・宮城・福島)の情報を紹介する。

自然の脅威を経験したからこそ伝えられる「震災・減災・防災」の学び、地元の人たちとの心温まる「地域交流」、自然と共生する人々の営みの中に見い出す「持続可能な未来」への取組み、そして震災から立ち上がり、前を向いて歩み続ける人たちの姿に学ぶ「生きるチカラ」の育成。東北には「ここ」でしか体験できない“生きた学び”がある。

本ガイドブックではそんな4つのテーマに加え、海外の学校との交流を受け入れている学校の情報も掲載。文化や価値観の異なる同世代の若者たちとの交流は、きっと子供たちの視野や多様性への理解を広げてくれる貴重な機会となる。巻末には各県・市おすすめのプログラムをピックアップ。東北への教育旅行を企画する際の参考にご活用いただきたい。

東北は皆さんのお越しを心よりお待ちしています。



震災・減災・ 防災学習

現地でしか体感できないリアリティが、震災・減災・防災に対し深い学びにつながります。

2011年3月11日に発生した東日本大震災では1万5,000人におよぶ尊い命が犠牲となりました。このような自然災害は、いつ、どこででも起こり得ます。しかし、実際に災害を経験していない子供たちに、それを実感してもらう事は簡単ではありません。それができるのが、東日本大震災の被災地で行われている様々な震災・減災・防災学習プログラム。

東北の各地域では、今後起こる可能性がある災害にそなえるため、過去の災害経験を次の世代や全世界に伝えるべく、防災学習の取組みを積極的に実施しています。

自分の足で被災地を歩き、自分の目で被災地を見つめることで、どこか他人事だった子供たちも、災害の恐ろしさを、よりリアリティを持って理解することができます。また現地の人たちの経験を聞き、その思いを共有することで、そこで語られた教訓はしっかりと心に刻まれます。東北の被災地には、メディアでは伝わらない、現地でしか得られない深い学びがあります。

※死者数は2020年12月10日現在。警察庁の発表による。行方不明者の人数を含まない。



青森県・種差海岸での漁師鍋おふるまい



宮城県・南三陸町 交流風景



福島県・コミュタン福島の学習風景



岩手県・遠野の語り部

地域交流

その土地の文化や人々との
ふれあいを通じてこころ通い合う
新たな絆が育まれます。

震災・減災・防災学習プログラムには、震災の記憶を後世に伝えるための「震災遺構」「伝承施設」の見学や、震災を語り継ぐ「語り部のガイド」といった震災・減災・防災学習以外にも、様々な体験ができます。

「農作業体験」で地元の農家さんと一緒に収穫をしたり、「漁業体験」で漁師さんと海に出て漁を体験したり、復興に取り組む人たちとまちづくりのお手伝いをしたり、地域に伝わる伝統の「モノづくり」や「まつり」を体験したり、その土地ならではの様々な体験を通じて、地元の人たちと心温まる交流ができます。さらに地元の一般家庭での「民泊」を通じ、より深い絆が育まれます。

その経験は忘れられない思い出として、子供たちの心にいつまでも残ることでしょう。



福島県・葛尾村の農業体験



青森県・農家民宿での体験風景



宮城県・松島観瀬亭での抹茶体験



山形県・蔵王温泉スキー場



青森県・奥入瀬コケ観察

持続可能な 環境を考える

地域の課題を知ることで
将来的に持続可能な環境を考え
大人になります。

震災で大きな被害を受けた地域では、単に震災以前のまちの姿を取り戻すというだけではなく、よりよい地域コミュニティの再生に向けた新たなまちづくりが進んでいます。

もともと被災地の多くは、少子高齢化や過疎化など、様々な社会問題を抱えていました。新たなまちづくりは、震災によって加速した、社会課題の解決方法を探る取り組みでもあります。そこには、行政だけではなく住民も主体的に関わっており、地域の若者たちはもちろん、ボランティアやNPOを通じて他の地域から来ている若者たちも積極的に活動しています。

被災地を訪れ、自分たちとあまり年齢の違わない若者たちの活動を知り交流を図ることは、新たな社会の担い手として、子供たちを将来的に持続可能な環境を考える大人に育てます。



生きる チカラの育成

震災を経験した人々との
触れ合いを通じ、
生きるチカラが育れます。

震災は平穏な日常を一瞬にして奪い、親しい家族や友人を亡くし、住んでいた家や大切な物を流され、学校や職場を失いました。それでも被災地で暮らす人々は、絶望から立ち上がり、復興に向けて前に進んでいます。

多様なプログラムを通じて触れ合い、言葉を交わした地元の人々は、皆それぞれに様々な経験を乗り越えてきた人たち。その逞しい姿は、実は心の内側に様々な悩みや不安を抱えながら生きている繊細な年頃の子供たちにとって、生きたお手本になるはずです。

実際に災害にあった時に命を守る「生きるチカラ」、震災から立ち上がり、希望をもって前に進むための「生きるチカラ」。震災・減災・防災学習は、その2つの「生きるチカラ」を育むことができます。

東北(太平洋沿岸) 教育旅行 CONTENTS

※本ガイドブック記載の情報は2021年2月現在の情報です。

震災・減災・防災学習

- P-7 ① いわき市地域防災交流センター 久之浜・大久ふれあい館
- ② 相馬市伝承鎮魂祈念館
- ③ 東日本大震災・原子力災害伝承館
- ④ 福島県環境創造センター交流棟 コミュタン福島
- ⑤ NHK 仙台放送局
- ⑥ 気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館
- ⑦ 震災遺構 仙台市立荒浜小学校
- ⑧ せんだい 3.11メモリアル交流館

地域交流

- P-11 ⑯ 会津藩校日新館
- ⑰ ふくしまのフルーツ狩り
- ⑲ 白石城 甲冑着付け体験
- ⑳ みやぎのスキーティー
・オニコウベスキーリー
・スプリングバレー仙台泉スキーリー
・マウンテンフィールド宮城蔵王すみかわスノーパーク
- P-12 ㉑ 仙台市内まち歩き
- ㉒ 仙台伝統ミニ七夕飾り作り体験

- P-9 ⑨ 東日本大震災 学習・資料室
- ⑩ MEET門脇
- ⑪ 南三陸町 防災・震災学習プログラム
- ⑫ 大船渡津波伝承館
- ⑬ 三陸鉄道 震災学習列車
- ⑭ 東日本大震災津波伝承館 いわてTSUNAMIメモリアル
- ⑮ 宝来館 震災学習プログラム
- ⑯ 種差海岸インフォメーションセンター

- P-12 ㉓ みやぎの漁業体験
- ㉔ みやぎの農林漁家民泊体験
- ㉕ 久慈琥珀博物館
- ㉖ 中尊寺 座禅体験
- ㉗ 遠野ふるさと村
- ㉘ 三内丸山遺跡センター
- ㉙ 津軽藩ねぷた村
- ㉚ 十和田市現代美術館
- ㉛ 青森の農家民宿と農作業体験



持続可能な環境を考える

- P-15 ㉒ アクアマリンふくしま
- ㉓ 仙台うみの杜水族館
- ㉔ 奥入瀬渓流
- ㉕ 白神山地

おすすめプログラム

- P-19 ㉑ 葛尾村:民泊施設「ZICCA」を中心とする交流体験
- P-20 ㉒ 南三陸町:台湾交流事業
- P-21 ㉓ 仙台市・松島町:教育旅行事業
- P-22 ㉔ 遠野市:農村体感・民泊体感事業
- P-23 ㉕ 八戸市:種差海岸における教育旅行体験プログラム

海外からの教育旅行に関する問い合わせ窓口

青森県 アジアからの観光客誘致推進協議会(青森中央学院大学内)
TEL:017-728-0131
MAIL:green-tourism@aomoricgu.ac.jp

岩手県 岩手県商工労働観光部観光・プロモーション室
TEL:019-629-5573
MAIL:AE0006@pref.iwate.jp
WEB:<https://visitiwate.com/>

宮城県 宮城県経済商工観光部国際政策課
TEL:022-211-2277
MAIL:koryu2@pref.miagi.lg.jp
WEB:<https://www.pref.miagi.jp/soshiki/kokusaisei>

福島県 福島県観光交流局観光交流課
TEL:024-521-7287
MAIL:tourism@pref.fukushima.lg.jp
WEB:<https://fukushima.travel/>

東北観光推進機構 <https://www.tohokukanko.jp>
3.11伝承ロード推進機構 <https://www.311densho.or.jp>

教育旅行おすすめスポット

震災学習

震災学習

01 津波から住民を守る施設



福島県いわき市

いわき市地域防災交流センター 久之浜・大久ふれあい館

【問い合わせ】

- ④ 福島県いわき市久之浜町
久之浜字中町32
電 0246-82-2111
毎 8:30~17:00
休 土・日曜、祝日、12月29日~1月3日
料 入館無料

東日本大震災で甚大な被害を受けたい
わき市久之浜地区にあり、津波発生時
に緊急避難できる津波避難ビルとして
設置された。平常時は市役所の支所・公
民館の機能も併せ持つ。建物の2階には
震災の経験・記憶・教訓を後世に伝える
「防災まちづくり資料室」があり、地区の
津波被害状況、避難所での避難生活の
再現、ハザードマップなどの展示を行っ
ている。

03 複合災害の記録と教訓を未来へ引き継ぐ



福島県双葉町

東日本大震災・ 原子力災害伝承館

【問い合わせ】

- ④ 福島県双葉郡双葉町大字中野高田39
電 0240-23-4402
毎 9:00~17:00(最終入館16:30)
休 火曜(祝日の場合は翌平日)、12月29日~1月3日
料 入館料
大人600円、小・中・高校生300円
※団体割引あり
<https://www.fipo.or.jp/lore/>

東日本大震災において、地震・津波によ
る災害と、津波の影響で起きた福島第一
原子力発電所事故との複合災害から学
んだ教訓を決して風化させず継承・発信
する施設として、2020年9月20日に開館。
当時の状況とその後の復興過程を展示
物や映像資料から学べるほか、災害を
体験した方の話を聞く語り部講話、周辺
地域を見て体感しながら学ぶフィールド
ワークなども用意している。

震災学習

震災学習

02 相馬市沿岸部の原風景を次代へ



福島県相馬市

相馬市伝承鎮魂祈念館

【問い合わせ】

- ④ 福島県相馬市原釜字大津270
笠岩公園内
電 0244-32-1366
毎 9:00~17:00
休 12月29日~1月3日
料 入館無料
<https://soma-kanko.jp/trip/tinkonkinenkan/>

東日本大震災の津波によって大きな被
害を受けた相馬市の尾浜、原釜、磯部地
区。この施設では、震災前の各地区の風
景や伝統祭事の写真、震災直後の映像
資料などを展示。3地区の原風景を地区
内外に発信するとともに遺族の心のよ
りどころとし、震災の恐ろしさや教訓を
後世に伝え続ける。また海を望むように
慰霊碑がたち、訪れた人が手を合わせ
ることができる。

04 ふくしまの未来を描く



福島県三春町

福島県環境創造センター 交流棟 コミュタン福島

【問い合わせ】

- ④ 福島県田村郡三春町深作10-2
田村西部工業団地内
電 0247-61-5721
毎 9:00~17:00
休 月曜(祝日の場合は翌平日)、12月29日~1月3日
料 入館無料
<https://www.com-fukushima.jp/>

ふくしまの現状や放射線・環境問題につ
いて、体験型の展示などで楽しく学ぶこ
とができる施設。ふくしまの原子力災害
との闘い、ふくしまの環境回復・環境創
造のいま、放射線についての正しい知識、
再生可能エネルギーや循環型社会、地
球温暖化などの展示を行う。また360度
全球型のドームシアター「環境創造シア
ター」では、大迫力の音響と映像を体験
できる。

教育旅行おすすめスポット

震災学習

震災学習

05 震災直後に放送した映像などを公開



宮城県仙台市

NHK 仙台放送局

【問い合わせ】

- ④ 宮城県仙台市青葉区本町2-20-1
- ④ 022-211-1001(見学予約)
- ④ 10:00～17:00
※土曜は13:00～17:00
- ④ 月曜(祝日の場合は翌日)
- ④ 入館無料
https://www.nhk.or.jp/sendai/station_info/guide.html

NHK仙台放送局の「定禅寺メディアステーション」では、東日本大震災の事実や記憶、経験や教訓を伝える映像資料などを展示している。震災発生後72時間分の総合テレビの映像を視聴できるコーナーなどがある。

ナーや、被災地の歩み、復興の経過を長期的に記録した「定点映像」の視聴ができるほか、その場にいるかのように被災地の状況を知ることができるVR映像の体験コーナーなどがある。

07 被災時のままの姿で建つ



宮城県仙台市

震災遺構 仙台市立荒浜小学校

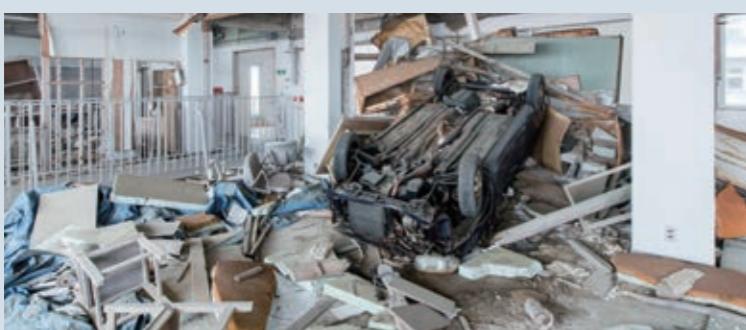
【問い合わせ】

- ④ 宮城県仙台市若林区荒浜字新堀端32-1
- ④ 022-355-8517(管理事務所)
- ④ 9月～6月9:30～16:00、
7月～8月9:30～17:00
- ④ 月曜、第4木曜(祝日を除く)年末年始、
臨時休館あり
- ④ 入館無料
https://www.city.sendai.jp/kankyo/shisetsu/ruin_rahama_elementaryschool.html

東日本大震災時、児童や教職員、地域住民が避難し、2階まで津波が押し寄せた荒浜小学校を震災遺構として保存・公開。1、2階では校舎の被害状況や被災直後の様子を伝える写真などを展示。4階で

は地震発生から避難、津波襲来、救助に至るまでの経過を写真や映像で展示し、津波の威力や脅威を伝えている。屋上からは荒浜地区全体を見渡しながら、被災前後の風景を比較することができる。

06 震災の記憶と教訓を伝える“目に見える証”



宮城県気仙沼市

気仙沼市 東日本大震災遺構・伝承館

【問い合わせ】

- ④ 宮城県気仙沼市波路上瀬向9-1
- ④ 0226-28-9671
- ④ 4月～9月9:30～17:00、
10月～3月9:30～16:00
- ④ 月曜(祝日の場合は翌日)、
祝日の翌日(土日、GW期間を除く)
※毎月11日、9月1日、11月5日は特別開館
12月29日～1月4日
- ④ 入館料
一般600円、高校生400円、
小・中学生300円 ※団体割引あり
<https://www.kesennuma-memorial.jp/>

東日本大震災の震災遺構、そして新設された震災伝承館によって、震災の記憶と教訓を伝える施設。震災遺構となった宮城県気仙沼向洋高等学校旧校舎は、被災当時のままの状態で展示されており、

大津波の爪痕を目で見て実感できる。震災伝承館では、津波の記録、被災者の想いの映像、津波の脅威と爪痕の写真の展示を行う。語り部ガイドなどの体験プログラムも実施(有料)。

08 震災の記憶を未来へ、世界へ



宮城県仙台市

せんだい3.11 メモリアル交流館

【問い合わせ】

- ④ 宮城県仙台市若林区荒井字沓形85-4
地下鉄東西線荒井駅内
- ④ 022-390-9022
- ④ 10:00～17:00
- ④ 月曜(祝日の場合は翌日)、
祝日の翌日(土・日曜、祝日を除く)、
年末年始、臨時休館あり
- ④ 入館無料
<http://sendai311-memorial.jp/>

仙台市地下鉄東西線荒井駅舎内にある施設。東日本大震災を知り学ぶための場であるとともに、津波により大きな被害を受けた仙台市東部沿岸地域への支援としての役割を担う。震災被害や復

興状況を伝える常設展と、地域の暮らし・記憶を通して震災を伝える企画展のほか、震災を語り合うワークショップや周辺を巡るフィールドツアーも実施している。

教育旅行おすすめスポット

震災学習

震災学習

09 震災にまつわる資料を展示



宮城県仙台市

東日本大震災 学習・資料室

【問い合わせ】

- ⑨ 宮城県仙台市泉区八乙女4-2-2
みやぎ生協文化会館ウイズ1F
電 022-374-8531
○ 10:00～17:00
休 土・日曜・年末年始
料 入館無料
https://www.miagi.coop/support/shien/study_data/

「東日本大震災を忘れない、風化させない、伝え続ける」をテーマに2013年、みやぎ生協文化会館ウイズ内にオープン。2020年度までの入場者数は9,000人を達し、2016年度には震災当時の写真などを増やしリニューアルしている。

11 被災者との交流を通して震災を知る



宮城県南三陸町

南三陸町 防災・震災学習 プログラム

東日本大震災の津波によって町の中心部が被害を受け、町内の家屋約70%が被災した南三陸町。その後も不自由な生活を余儀なくされた町の住民が語り部となり、彼らが直面する現状や復興に

むけての歩み、教訓などを話す(英語・中国語対応可)。他にもまちあるき、漁業・農業が盛んな町の産業を体験するなど、さまざまな学習プログラムが企画されている。

- 【問い合わせ】
一般社団法人 南三陸町観光協会
電 0226-47-2550
<https://www.m-kankou.jp/>

10 未来のために動きだそう／Act for the Future



宮城県石巻市

March 11 Education & Exhibition Theater 門脇 (MEET門脇)

【問い合わせ】

- ⑨ 宮城県石巻市門脇5-1-1
電 0225-98-3691
(公益社団法人3.11みらいサポート事務所)
○ 10:00～17:00
休 不定期
料 大人300円、高校生以下無料
<https://311support.com/learn311/meetkadonowaki>

「3.11でつながろう、未来のために動きだそう」をコンセプトに、2021年3月に新設された伝承交流施設。館内には住民100名から聞き取りした内容をもとに、津波避難の教訓を2面シアターで再現す
るほか、遺族の思いと共に展示する遺品や、子ども防災学習のスペースも設ける。また、隣接する石巻南浜津波復興祈念公園や震災遺構・門脇小学校などの伝承施設をつなぐツアー調整も行う。

12 津波の脅威を後世に伝える



岩手県大船渡市

大船渡津波伝承館

【問い合わせ】

- ⑨ 岩手県大船渡市大船渡町字茶屋前7-6
大船渡市防災観光交流センター内
電 0192-47-4408(事務局)
○ 10:00～15:30
休 水曜(臨時休館あり)
料 入館無料
<https://www.ofunato-tsunami-museum.org/>

東日本大震災の津波をテーマとするミュージアム。パネル展示では、震災前と地震発生時からの大船渡の様子を時系列で展示している。また地震と津波を体験した語り部から、津波映像の解説と被災体験談を聞くことができる(有料)。展示や語り部の話から津波の脅威を感じるとともに、防災に対する意識について改めて考えさせられる。展示は不定期のため来館の際は確認が必要。

教育旅行おすすめスポット

震災学習

震災学習

13 列車に乗って学ぶ東日本大震災



岩手県

三陸鉄道 震災学習列車

【問い合わせ】

三陸鉄道
旅客営業部
④ 0193-71-1170(田野畠・久慈間、鵜住居・宮古間)
大船渡派出所
④ 0192-27-9669(盛・釜石間)
<https://www.sanrikutetsudou.com/?p=239>

東日本大震災で被災した三陸鉄道は、被災地の復興のシンボルとして2014年4月に全線開通した。「震災学習列車」は、沿線の現状を見て、聞いて、感じて防災を学ぶスタディツーリズムだ。復興を遂げた列車に乗り、被災状況がわかる場所に一旦停車または徐行運転をしながら移動。三陸鉄道社員または沿線住民が、車内で震災の状況などを案内する(予約制)。

15 大津波について女将が語る



岩手県釜石市

宝来館 震災学習プログラム

【問い合わせ】

宝来館
④ 岩手県釜石市鵜住居町20地割93-18
④ 0193-28-2526
<https://houraikan.jp/>

釜石市根浜海岸が目の前に広がり、三陸の海の幸を味わえる旅館として評判の宝来館。東日本大震災では2階まで浸水する津波被害に遭ったが、10ヵ月後に宿の営業を再開した。発災当時、避難誘導をする中で自ら津波に襲われ、裏山に避難して奇跡的に助かった女将が語り部となり、津波の経験と教訓、そして地域のにぎわい創出など未来に向けた話を。

14 津波災害を学び防災意識を高める



岩手県陸前高田市

東日本大震災津波伝承館 いわて TSUNAMI メモリアル

【問い合わせ】

④ 岩手県陸前高田市気仙町字土手影180
④ 0192-47-4455
④ 9:00~17:00
④ 年末年始・臨時休館日
④ 入館無料
<https://iwate-tsunami-memorial.jp/>

東日本大震災による津波で起こったことを正しく学び、防災意識を高めることができる施設。常設展示では、津波災害の歴史、津波で被災した実際のものや当時の写真、震災を乗り越え前へ進む被災地の姿などを4つのゾーンで紹介する。施設は高田松原津波復興祈念公園内にあり、園内には同館をはじめ献花の場や津波で残った「奇跡の一本松」などがある。英語・中国語対応可。

震災学習

震災学習

16 種差海岸の情報発信拠点



青森県八戸市

種差海岸 インフォメーション センター

【問い合わせ】

④ 青森県八戸市大字鮫町棚久保14-167
④ 0178-51-8500
④ 4月~11月9:00~17:00、
12月~3月9:00~16:00、
1月2・3日10:00~15:00
④ 12月29日~1月1日
④ 入館無料
<http://www.tanesashi.info/>

荒々しい磯浜や白砂と松原など、ウミネコの繁殖地として有名な蕪島から大久喜まで全長約12kmにわたって多彩な表情を見せる種差海岸の観光拠点施設。館内からは、波打ち際まで天然の芝生が広がる「種差海岸天然芝生地」が見渡せる。模型や映像で種差海岸独特の地形や植生を紹介するほか、地域の自然や文化に触れる体験プログラム、工作プログラムもある(有料)。

地域交流

地域交流

17 かつての藩校で武士道を体験



福島県会津若松市

会津藩校日新館

【問い合わせ】

- ④ 福島県会津若松市河東町南高野字高塚山10
- ⑤ 0242-75-2525
- ⑥ 9:00～17:00
- ⑦ 無休
- ⑧ 入館料 大人620円、中・高校生500円、小学生450円 ※団体割引あり
<https://nisshinkan.jp/>

人材育成を目的に1803年に創設された総合学校で、藩士の子弟が学問と武道の両方を学んだ。現在の施設は当時のものを忠実に復元しており、当時の学びの様子がうかがえる。体験プログラムが

豊富で、弓道や座禅、茶道など武道に通じる体験ができるほか、白虎刀や赤ベコ、起き上がりこぼしの絵付けといった会津の伝統的な工芸品に触れる体験もできる(有料)。

19 甲冑を着て戦国武将になりきる



宮城県白石市

白石城 甲冑着付け体験

【問い合わせ】

- ④ 宮城県白石市益岡町1-16
- ⑤ 0224-24-3030
- ⑥ 070-8427-5236(甲冑着付け体験予約)
- ⑦ 4月～10月10:00～16:00、11月～3月10:00～15:00
- ⑧ 火・水曜
- ⑨ 入館料 一般400円、小・中・高校生200円、未就学児童無料 ※団体割引あり
<http://miyagidmo.org/armor.html>

仙台藩主伊達家重臣の片倉家が、約260年にわたり居城として治めた白石城。一度は解体されたものの、史実に忠実に復元。木造で復元された城は数少ない。天守内部を見学できるほか、城内で

甲冑の着付け体験ができる(有料)。白石にゆかりのある真田幸村公と片倉小十郎景綱公の甲冑を忠実に再現した最高級品を身に着けることで、気軽に戦国武将の気分が味わえる。

18 フルーツ王国ふくしまで、もぎとり体験



福島県

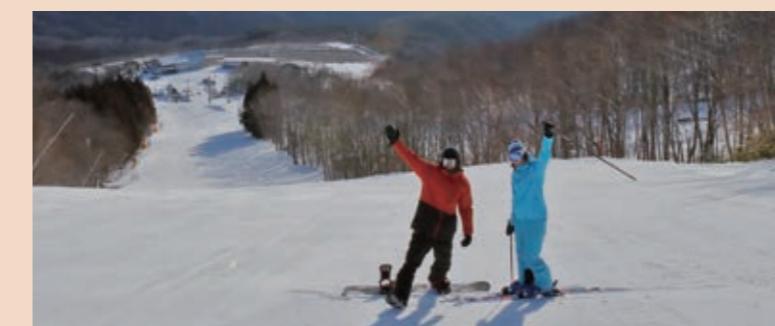
ふくしまのフルーツ狩り

福島県は、全域で果樹を栽培するフルーツ王国。季節によってさまざまな果樹を栽培しており、収穫シーズンになると各観光果樹園でもぎとり体験が行われる(時間制限の食べ放題)。冬～春のいちご、初夏のさくらんぼ、夏のももやブルーベリー、夏～秋のぶどうやなし、秋のりんごが主な種類だ。木の上で完熟した旬の果物をもぎとり、その場で食べる味は格別だ。

【問い合わせ】

- 「ふくしまの旅 まるごと収穫体験」
<https://www.tif.ne.jp/jp/spot/kudamono.php>

20 雄大な自然の中で爽快に滑走



宮城県

みやぎのスキーボード

【問い合わせ】

- ・ オニコウベスキー場
⑤ 0229-86-2111
<https://www.onikoube.com/>
- ・ スプリングバレー仙台泉スキー場
⑤ 022-379-3755
<https://www.springvalley.co.jp/>
- ・ マウンテンフィールド
宮城蔵王すみかわスノーパーク
⑤ 0224-87-2610
<http://www.zao-sumikawa.jp/>

宮城県内のスキー場は、雪の状況に合わせて順次オープンする。初心者から上級者まで幅広いスキーヤーに対応できる多彩なコースがあり、上質な雪の状態も魅力だ。白銀の雪に覆われた非日常の世界に身を置いての滑走は、爽快そのもの。ほかにも宮城蔵王の冬のシンボル・樹氷めぐりやスノーハイキングなど、冬ならではの多彩な体験ができる。

教育旅行おすすめスポット

地域交流

地域交流

21 仙台市の中心部を快適に散策



宮城県仙台市

仙台市内まち歩き

東北を代表する都市、仙台市の中心部には大規模なアーケード商店街があり、ショッピングや観光などが楽しめる。この商店街にある百貨店「藤崎」内には多言語対応の観光案内所「仙台ツーリスト

インフォメーションデスク」があり、道案内、おすすめスポット、WiFi事情などさまざまな情報を、日本語、英語、中国語、韓国語などで提供している。一括免税カウンターも併設。

【問い合わせ】
仙台ツーリストインフォメーションデスク
(i-SENDAI)
⑨ 080-2815-8321
⑩ 藤崎百貨店の休業日
<https://jp.i-sendai.jp/>

23 世界三大漁場の豊かさを体感



宮城県南三陸町・利府町

みやぎの漁業体験

世界の中でも特に優良な漁場として「世界三大漁場」に数えられる宮城県沖。その豊かな恵みを収穫する体験ができる。たとえば「ハーバーハウスかなめ」には、追い込み漁、刺し網漁といった伝統的な

漁法の体験や季節の魚釣り体験、「南三陸町観光協会」には、漁船に乗船し養殖いかだや湾の様子を見学しながら漁師から養殖漁業の仕組みを学ぶプログラムがある。

【問い合わせ】
ハーバーハウスかなめ
⑨ 022-366-7006
一般社団法人 南三陸町観光協会
⑨ 0226-47-2550
<https://www.m-kankou.jp/>

22 伝統の七夕飾りを手作りする



宮城県仙台市

仙台伝統 ミニ七夕飾り作り体験

日本古来の星祭りを、豪華絢爛な装飾で彩る伝統行事「仙台七夕まつり」。宮城の食や文化が満喫できるアミューズメントパーク「鐘崎 笹かま館 七夕ミュージアム」では、和紙製の七夕飾りのミニチュ

ア作り体験を実施する(有料)。仙台七夕についての説明を受けながら、和紙のおりがみで豪華な七夕飾りを作る。館内では、過去から現代までの七夕飾りの見学もできる。

【問い合わせ】
鐘崎 笹かま館 七夕ミュージアム
⑨ 宮城県仙台市若林区鶴代町6-65
⑨ 022-238-7170
⑩ 不定期
https://www.kanezaki.co.jp/shop/belle_factory/tanabata_museum.html

地域交流

地域交流

24 農林漁家のなりわいを体験



宮城県

みやぎの農林漁家 民泊体験

県内の広い地域に、海も山も広がる宮城県。農山漁村地域で生産者のもとに宿泊し、のんびりとした風景、日本の田舎暮らし、農林漁業体験、宿主や地域の人との心あたたまる交流などを体験する

ことができる。宿泊体験を通して普段食べている米や野菜、魚介類について学べるほか、収穫したものを新鮮なうちに食べることができるのも魅力だ。

【問い合わせ】
みやぎ教育旅行等
コーディネート支援センター
⑨ 022-265-8722

地域交流

地域交流

25 日本唯一の琥珀の博物館



岩手県久慈市

久慈琥珀博物館

【問い合わせ】

- ④ 岩手県久慈市小久慈町19-156-133
- 電 0194-59-3831
- ⑤ 9:00~17:00
- 休 12月31日~1月1日、2月末日
- ⑥ 入館料 大人500円、小・中学生200円
※団体割引あり
<http://www.kuji.co.jp/museum>

琥珀の産地として有名な久慈市にある琥珀専門の博物館。館内では世界各国の琥珀をはじめ、巨大原石や昆虫入り琥珀、工芸品の展示と、琥珀の歴史や魅力を紹介する。注目は琥珀採掘場から発見された恐竜化石と一緒に発見された恐竜時代の虫入り琥珀。ジュラシックパークの世界を楽しむことが出来る。琥珀採掘体験や琥珀を使った手作り体験(有料)もできる。

27 日本の山里の暮らしを体験



岩手県遠野市

遠野ふるさと村

【問い合わせ】

- ④ 岩手県遠野市附馬牛町上附馬牛5-89-1
- 電 0198-64-2300
- ⑤ 3月~10月9:00~17:00、
11月~2月9:00~16:00
- 休 水曜、12月30日~1月1日
- ⑥ 入村料 一般550円、小・中・高校生330円
※団体割引あり
<http://www.tono-furusato.jp/>

8.8ヘクタールという広い敷地面積に、近隣から移築した茅葺屋根の古民家、田んぼや畑、水車などとともに昔ながらの日本の農村風景を再現した施設。地域に伝わる伝統や文化を守る人「まぶり」と(守り人)衆の指導のもと、わら細工や草木染などのものづくり体験、もちろんそば打ちなどの調理体験ができ、遠野に伝わる昔話を聞くプログラムもある(いずれも有料)。7日前まで要予約。

26 座禅で仏道修行体験



岩手県平泉町

中尊寺 座禅体験

【問い合わせ】

- ④ 岩手県西磐井郡平泉町平泉衣関202
- 電 0191-46-2211
- ⑤ 3月~11月3日8:30~17:00、
11月4日~2月8:30~16:30
- ⑥ 座禅体験は11月1日~3月31日まで休み
- ⑦ 拝観料 大人800円、高校生500円、
中学生300円、小学生200円
※団体割引あり
<https://www.chushonji.or.jp/index.html>
※ソーシャルディスタンスを保ち30名まで同時に体験できます(平時は120名まで)

世界遺産 平泉の構成資産のひとつに数えられる名刹。境内は中尊寺本坊と17の支院で構成され、国宝の金色堂をはじめ重要な建造物、美術工芸品が多数残る。中尊寺本堂では座禅修行を体験す

ることができる(有料※3日前までの事前予約制)。呼吸と姿勢を整えて座ることで、悩みや欲望から離れ心穏やかに自分自身を見直すことができ、意識の集中やストレス軽減などの効果が得られる。

28 日本を代表する縄文遺跡



青森県青森市

三内丸山遺跡センター

【問い合わせ】

- ④ 青森県青森市三内字丸山305
- 電 017-766-8282
- ⑤ 10月~5月9:00~17:00、
6月~9月9:00~18:00
(入館は閉館の30分前まで)
- ⑥ 第4月曜(祝日の場合は翌日)、12月30日~1月1日
- ⑦ 入館料 一般410円、
高校生・大学生等200円、中学生以下無料
※団体割引あり
<https://sannaimaruyama.pref.aomori.jp/>

特別史跡三内丸山遺跡は、今から約5,900年前から4,200年前の日本最大級の縄文集落跡で、復元された大型建物を含む「縄文のムラ」が見学できる。遺跡に隣接して「縄文時遊館」があり、遺跡から発掘された出土品や、縄文人の生活を再現した展示などを見ることができます。また、縄文文化に親しむものづくりを体験することができる(要材料費)。

教育旅行おすすめスポット

地域交流

地域交流

29 津軽の伝統と文化を体験



青森県弘前市

津軽藩ねぶた村

【問い合わせ】

- ④ 青森県弘前市亀甲町61
- 電 0172-39-1511
- 宮 9:00~17:00
- 休 無休
- ④ 入村料
一般550円、中・高校生350円、
小学生220円、幼児(3歳以上)110円
※団体割引あり
<http://neputamura.com/>

青森県津軽地域に伝わる伝統文化を体験できる施設。夏祭りに欠かせない山車「ねぶた」の見学では、高さ10mの大型ねぶたと骨組みが見学できるほか、係員が随時ねぶたの解説(英語・中国語・韓国語・タイ語)と、笛と太鼓のお囃子を実演する。ほかにも津軽塗、こぎん刺しといった民工芸品の製作風景の見学、日本庭園、津軽三味線の鑑賞なども楽しめる。

31 実際の農家にホームステイ



青森県

青森の農家民宿と農作業体験

【問い合わせ】

- アジアからの観光客誘致
推進協議会
(事務局:青森中央学院大学)
- 電 017-728-0131

自然が豊かな青森県の農村には、心安らぐ田園風景やその地域ならではの伝統文化、素朴であたたかい人間関係があり、実際の農家に宿泊することでそれらを体感することができる。体験メニューはさまざまなものがあり、生産量日本一のりんごをはじめとした果物や野菜の農作業体験のほか、青森ならではの手仕事を学ぶものづくり体験、雪遊び体験などもラインナップされている。

30 現代美術作品を恒久設置



青森県十和田市

十和田市現代美術館

【問い合わせ】

- ④ 青森県十和田市西二番町10-9
- 電 0176-20-1127
- 宮 9:00~17:00
- 休 月曜(祝日の場合は翌日)、年末年始
- ④ 入館料 大人1,200円
(企画展のない場合は520円)、
高校生以下無料 ※団体割引あり
<https://towadaartcenter.com/>

現代美術の鑑賞体験を提供する開かれた美術館。アートを通した新しい体験ができる。常設展には、ここでしか見ることができない恒久設置作品を展示。草間彌生やロン・ミュエクなど世界の第一線で活躍するアーティストらの作品により構成されている。またギャラリースペース、カフェ&ショップ、市民活動スペースなどの交流促進スペースが設けられている。

持続可能な環境

32 自然を体感できる水族館



福島県いわき市

アクアマリンふくしま

【問い合わせ】

④ 福島県いわき市小名浜字辰巳町50
⑨ 0246-73-2525
⑤ 3月21日～11月30日9:00～17:30、
12月1日～3月20日9:00～17:00
⑥ 無休
⑦ 入館料
大人1,850円、小・中・高校生900円、
未就学児無料 ※団体割引あり
<https://www.aquamarine.or.jp/>

福島の海の大きな特徴である、太平洋の「潮目」をテーマにした水族館。館内には約800種6万点の生物を展示する。2～4階に吹き抜ける大水槽では、トンネルを通りながらマイワシやカツオの迫力

ある泳ぎを観察できる。熱帯アジアを再現したコーナーや、トドなどの大型ほ乳類、深海生物の展示コーナーのほか、チンアナゴなどを展示する「サンゴ礁の海」コーナーも人気だ。

持続可能な環境

34 自然美が際立つ滝や渓流



青森県

奥入瀬渓流

【問い合わせ】
十和田湖国立公園協会
⑨ 0176-75-2425
<http://towadako.or.jp/>

十和田湖から流れ出る渓流で、十数カ所の滝、美しい清流などを約14kmにわたって形成。国の特別名勝及び天然記念物に指定されている。渓流沿いに車道と遊歩道が整備されているため、車を降りてから森の奥深くに入ることなく、すぐそばで渓流を眺めることができる。また渓流沿いに多くの木々が立ち並び、新緑や紅葉など季節に応じてさまざまな景色を見せてくれる。

33 多彩な海の生き物に出会える



宮城県仙台市

仙台うみの杜水族館

【問い合わせ】

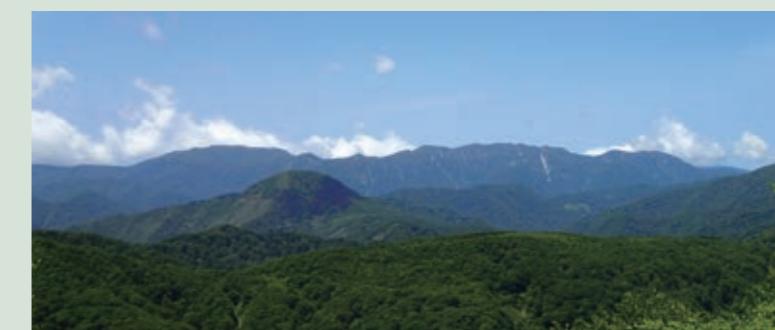
④ 宮城県仙台市宮城野区中野4-6
⑨ 022-355-2222
⑤ 9:00～17:30※季節により異なります
⑥ 無休
⑦ 入館料
大人2,200円、中・高校生1,600円、
小学生1,100円、幼児600円、
シニア1,600円 ※団体割引あり
<http://www.uminomori.jp/umino/>

9,900m²の延床面積に約100基の水槽群を持ち、日本はもとより世界の個性的な生き物を展示する水族館。三陸の海を再現した巨大水槽や世界中の個性的な生き物の展示、ペンギンやオタリアとのふれあい体験、

東北最大級の観覧席を有するイルカやアシカのパフォーマンスなど、見どころも充実している。水族館の裏側を飼育スタッフと探検するバックヤードツアーも人気。※状況により変更になる場合があります

持続可能な環境

35 世界自然遺産登録の山地帯



青森県・秋田県

白神山地

【問い合わせ】
白神山地ビジターセンター
⑨ 0172-85-2810
<http://www.shirakamiVisitor.jp/>

青森県南西部と秋田県北西部にまたがる広大な山地帯。世界最大級の原生的なブナ林が残り、多種多様な動植物が貴重な生態系を保っている。白神山地の自然環境を気軽に体感できる1時間程度の散策コースから本格的な登山コースまで、さまざまなコースが設定されている。特にコバルトブルーの湖面をたたえる「青池」などを含む「十二湖」を巡るコースが人気だ。

生徒交流 学校情報

※記載の情報は2021年2月現在の情報です。

- P-16
 - 36 会津若松ザベリオ学園中学高等学校
 - 37 郡山女子大学附属高等学校
 - 38 帝京安積高等学校
 - 39 宮城県気仙沼高等学校
 - 40 聖ウルスラ学院英智高等学校
 - 41 学校法人仙台育英学園 仙台育英高等学校
 - 42 仙台白百合学園中学・高等学校
 - 43 宮城県仙台二華中学校・高等学校
 - 44 宮城県松島高等学校 観光科
 - 45 私立一関修紅高等学校
 - 46 岩手県立不来方高等学校
 - 47 岩手県立遠野緑峰高等学校
- P-17
 - 48 青森県立青森高等学校
 - 49 青森県立名久井農業高等学校
 - 50 青森県立弘前南高等学校
- P-18



■福島県会津若松市西栄町1-18
■TEL:0242-27-1970

36 会津若松ザベリオ学園 中学高等学校

■生徒数:中学146名・高校598名
■課程・学科:CTコース、LTコース、GTコース

学校の特徴

「一人一人の子どもたちが、かけがえのない存在として神様に愛されていることを教育を通して世界中の子どもたちに知らせたい」という無原罪聖母宣教女会の創立者デリア・テトロの思いから設立されました。本学園は「デリア・テトロの意志」に基づいて、様々な教育を実践します。近年ではSDGsにも力を入れ、「ザベリオSDGs」を掲げて様々な活動に取り組んでいます。



■福島県郡山市開成3丁目25-2
■TEL:024-932-4352

37 郡山女子大学附属高等学校

■生徒数:女子469名
■課程・学科:普通科・音楽科・美術科・食物科

学校の特徴

創立74年を迎える女子校です。女性としての特性を発揮するため必要な知識と教養を身につけることを教育の最大のねらいとして、日々取り組んでいます。さらに同一法人の大学・短期大学部の各学部と連動し、七ヵ年・五ヵ年教育を進めています。また、創立以来、情操教育にも力を入れ、世界一流の芸術家や著名人を招いての芸術鑑賞講座・教養講座を毎年実施しています。



■福島県郡山市安積町日出山字神明下43
■TEL:024-941-7766

38 帝京安積高等学校

■生徒数:1,187名(男子:673名・女子:514名)
■課程・学科:普通科・ビジネス総合科

学校の特徴

時代の要請を的確にうけとめ、「社会に貢献し得る人材の育成」を目的に、普通科とビジネス総合科の2学科を設置。学科の特性を活かし、一人ひとりの希望進路実現のため、個性を大切に伸ばす教育を行っています。また、部活動では今年度、ソフトボール部、バスケットボール部、バドミントン部、卓球部が全国大会へ出場するなど、部活動も盛んです。



■宮城県気仙沼市常楽130
■TEL:0226-24-3400

39 宮城県気仙沼高等学校

■生徒数:700名
■課程・学科:普通科

学校の特徴

日本有数の水揚げ量を誇る港町・気仙沼市にある地域の拠点校です。文部科学省のスーパーグローバルハイスクール(SGH)に指定されており、海を素材とするグローバルリテラシーの育成を目指し、台湾やアメリカなどの国際交流を進めています。2018年度には第9回ESD(持続可能な社会の担い手を育む教育)大賞で文部科学大臣賞を受賞しました。



■宮城県仙台市泉区紫山1-2-1
■TEL:022-777-5777

42 仙台白百合学園中学・高等学校

■生徒数:女子500名
■課程・学科:L1コース(総合進学)
LSコース(特別進学)
LEコース(英語・留学)

学校の特徴

従順・勤勉・愛徳という校訓のもと、女子だけで学ぶ貴重な時間を活かしながら、世界を視野に入れた教育を行っています。愛の心を持って社会に奉仕するとともに、眞の国際交流を果たせる人材の育成を行っています。



■宮城県仙台市若林区一本杉町1-2
■TEL:022-286-3557

40 聖ウルスラ学院英智高等学校

■生徒数:831名(男子259名・女子572名)
■課程・学科:普通科

学校の特徴

カトリックのミッションスクールで、世界71か国に165の姉妹校があり、海外大学進学者も増加しています。創立当初よりグローバル教育に力を入れており、現在31の各種留学プログラムを展開しています。アジア圏との交流も盛んで、特に台湾に関しては台湾出身の教員も在籍し、台湾5大学と連携協定も結んでいます。全国的に有名なバドミントン部・吹奏楽部・書道部を始め、各種部活動も盛んです。



■宮城県仙台市若林区連坊1-4-1
■TEL:022-296-8101

43 宮城県仙台二華中学校・高等学校

■生徒数:中学校:314名(男子160名・女子154名)
高等学校:717名(男子277名・女子440名)
■課程・学科:普通科

学校の特徴

「世界の水問題」をテーマに、学校全体で課題研究に取り組んでおり、近郊の山川から海外のメコン川まで、国内外でフィールドワークを行っています。研修旅行先はシンガポールで、アメリカの学校とも連携校提携を行うなど、国際交流も盛ん。毎年1~2名、1年間の長期留学生も受け入れています。2009年にはユネスコスクールに加盟、2021年4月からは国際バカロアプログラムも開始します。



■[宮城野校舎]宮城県仙台市宮城野区宮城野二丁目4-1
[多賀城校舎]宮城県多賀城市高橋五丁目6-1
■TEL:022-786-2444

41 学校法人仙台育英学園 仙台育英高等学校

■生徒数:全日制課程:3,394名 広域通信制課程:678名
■課程・学科:特別進学コース、外国語コース、英進学コース、情報科学コース、フレックスコース、技能開発コース、秀光コース

学校の特徴

一世紀を超える歴史の中で、7万人もの卒業生を輩出してきた私立の伝統校。多彩なコース設定で、ひとり一人の生徒が持つ可能性を引き出しています。部活動も盛んで、運動部では様々な競技で全国レベルの活躍を見せています。東北初の国際バカロアディプロマプログラム(DP)の認定校にもなっており、世界で活躍できる人材の育成にも力を入れています。



■宮城県宮城郡松島町高城字迎山三5
※日時などについては事前にご相談ください。相談窓口は下記へお願いいたします。
■みやぎ教育旅行等コーディネート支援センター TEL:022-265-8722

44 宮城県松島高等学校 観光科

■生徒数:男子91名・女子139名
■課程・学科:観光科

学校の特徴

松島高校・観光科は、日本三景の一つ「松島」に立地し、その地域の観光資源を学習素材として、自己の生き方や在り方を考えさせながら、観光産業やそれに関連する産業・業種に携わろうとする人材の育成を目指して設置されました。「地域パートナーシップ会議」を通じて地域とも深く連携しています。それらの活動が評価され「第12回キャリア教育優良教育委員会、学校及びPTA団体等文部科学大臣表彰」を受賞しています。



■岩手県一関市字東花王町6-1
■TEL:0191-23-3096

45 私立一関修紅高等学校

- 生徒数:394(男子145・女子249)
- 課程・学科:普通科

学校の特徴

系列校に健康科学大学・修紅短期大学があり、健康科学大学では理学療法士や作業療法士、看護師を育成し、医療福祉分野のスペシャリストを輩出しております。修紅短期大学では幼稚園教諭・保育士さらには栄養士を輩出しています。系列校との連携しながら幼稚園教諭や保育士を目指す生徒には、高校在学中からピアノレッスンや子どもに関する基本的な教育を行います。また看護系の進学を地域の医師会との協力を得て、学習に励んでいます。



■青森県青森市桜川8丁目1-2
■TEL:017-742-2411

48 青森県立青森高等学校

- 生徒数:840名(男女共学)
- 課程・学科:普通科

学校の特徴

120年の歴史を誇る伝統校。自由な校風で文武両道を掲げ部活動も盛んです。文部科学省のスーパーグローバルハイスクール(SGH)に指定をきっかけに探究型学習に積極的に取り組んでおり、シンガポール、台湾、ベトナムの高校・大学や、県内大学との協働学習を取り入れています。スーパーサイエンスハイスクール(SSH)にも指定されており、国際的な科学技術の分野で活躍できる人材育成にも取り組んでいます。



■岩手県紫波郡矢巾町南矢幅9-1-1
■TEL:019-697-8247

46 岩手県立不来方高等学校

- 生徒数:818名(男女共学)
- 課程・学科:普通科(人文学系・理数学系・芸術学系・外国語学系・体育学系)

学校の特徴

外国語学系においては、英語、フランス語、中国語の3つのコースに分かれ、外国語教育を通じてグローバルな視野を育むことを目標としています。二年時には、コースに応じた海外修学旅行を行います。各種交換プログラムの紹介や留学生の受け入れも積極的に行っています。部活動への取り組みも活発で、運動部、文化部とも、全国レベルの大会で優秀な成績を収めています。



■青森県三戸郡南部町大字下名久井字諷訪平1
■TEL:0178-76-2215

49 青森県立名久井農業高等学校

- 生徒数:男子159名・女子86名
- 課程・学科:全日制 生物生産科、園芸科学科、環境システム科

学校の特徴

小規模校ではありますが、研究活動、緑化活動、国際交流活動を農業教育の柱として力を入れています。町は名産のリンゴを始め、サクラランボ、モモ、ブドウ、ナシなどの果樹生産の盛んな地域で、グリーンツーリズムやインバウンドについても、町を挙げて力を入れています。課題研究活動の盛んな学校で、国内外の環境及び農業に関する大会やコンクールで、毎年のように様々な賞を受賞しています。



■岩手県遠野市松崎町白岩21-14-1
■TEL:0198-62-2827

47 岩手県立遠野緑峰高等学校

- 生徒数:154名(男子87名 女子67名)
- 課程・学科:全日制課程 生産技術科、情報処理科

学校の特徴

遠野緑峰高校がある遠野市は、カッパなどにまつわる言い伝えが多く残る民話の里として全国に知られています。本校には農業系の「生産技術科」と、商業系の「情報処理科」の二つの学科があり、地域とも深いつながりを持ちながら、地域産業界に貢献できる人間になることを目標に実践的な学習に励んでいます。



■青森県弘前市大字大開四丁目1-1
■TEL:0172-88-2231

50 青森県立弘前南高等学校

- 生徒数:720名(男女共学)
- 課程・学科:普通科

学校の特徴

「自由・規律・友情」の校訓のもと、文武両道の精神に則り、学業と部活動の両立を図り、自らの将来を切り開く生徒の育成を目指しています。文部科学省よりスーパーサイエンスハイスクール(SSH)に指定され、地域資源(3ER:エネルギー資源、生態系資源、産業資源)を活用した探究活動や、大学・研究機関との連携を密にした、課題研究にも力を入れています。



51 葛尾村 – 民泊施設「ZICCA」を中心とする交流体験

多くの学びを得る教育旅行を受け入れています。
新たな地域づくりが進む福島県葛尾村で、
原発事故による避難及び帰還という困難を経験し、

人口約400人の村で 教育旅行の受け入れが増加中

福島県の東部に位置する葛尾村は、2011年の福島第一原子力発電所事故の際、全村避難を余儀なくされました。2016年に避難指示は解除され居住は可能になりましたが、震災前に約1,500人だった人口は今も430人程度にとどまっています。

こうした状況の中、同村出身の下枝浩徳さんが東京からUターンし、2012年に地域支援団体「葛力創造舎」を立ち上げました。活動内容は、地域のコミュニティサポート、人材育成等のパーソナルサポート、地場産品のブランド化、そして視察・研修・地域へのインターンの受け入れ等と幅広く展開しています。特に教育旅行の受け入れは、2019年11月に民泊施設「ZICCA」を整備してから加速度的に増えています。

教育旅行の受け入れに込めた “結”をむすぶ”という思い

人口400人足らずの村が教育旅行を受け入れる。そこには、この村ならではの“結”をむすぶ”という文

化に根差した精神が宿っています。村ではかつて、農繁期や村仕事の人手が足りない時、村総出で助け合う「結」が営まれていました。今でも知人や友人が野菜や料理、品物をおすそわけし合うなど、「結」の文化は村全体に脈々と受け継がれています。

この「結」をむすぶ相手を、村の中の人たちだけではなく、村外の人たちともつながりたいとするのが、教育旅行受け入れの背景にあります。村全体を一つの家族に見立て、村外の人とも親戚のようにつながり、「思いでつながるセカンドファミリー」のネットワークを築こうという気持ちが込められています。

民泊施設「ZICCA」を拠点に 地域の人と交流を深める

教育旅行受け入れの拠点となる民泊施設「ZICCA」は、まさに村民と村外の人が「結」をむすぶ場です。ある日の「ZICCA」の様子を紹介しましょう。この日は、首都圏から高校生30名が教育旅行で訪れました。

まず生徒たちは葛力創造舎のスタッフとともに村を散策し、村の現状と課題などを学びました。夕飯は

「ZICCA」の台所で生徒と地元の女性たちが一緒にカレーを作り、語らいながら一緒に食事を楽しみました。食後は、都会ではなかなか体験できない焚火体験でかけがえのない思い出を作りました。田んぼや山々、清流などに囲まれた素晴らしい環境の中、生徒たちは初めての体験と学びが詰まった時間を地域の人と共有しました。

参加者の声

夜、星空の下で焚火を囲んでの
おしゃべりは「エモい(心搖さぶ
られる)」経験になりました!

主催者の声

同じ空間で時間をともにし、思い出を重ねる中で、「ZICCA」を“第二の実家”にしてもらい、人生の節目にはセカンドファミリーとしてまた村を訪れてほしいと願っています。

問い合わせ先

一般社団法人葛力創造舎

TEL.0240-23-6820

mail : info@katsuryoku-s.com

web : <https://katsuryoku-s.com/>



葛尾の甘酒「ノマッシェ」



もちつき体験

村案内



おすすめ
プログラム

葛尾村の歴史と暮らし、原発事故を経た村の現状と課題、村づくりに対する村民の思いなどを学びます。

地域の人と食事作り



葛尾村に伝わる郷土料理や、みんなでワイワイ楽しみながら作るカレーライスまで、多彩なメニュー設定で食事作りを体験します。地域の人と一緒に食卓を囲み、会話を楽しみながら食事できるのも特徴です。

星空の下で焚火体験



「ZICCA」前で焚火を囲み、星空を見上げながら語らうひとときを楽しめます。

農林業体験



地域的人が営む農林業の仕事を、季節に応じて体験することができます。農業なら田植えや稲刈り、林業はまき割り体験、伐採の現場見学などができます。



52

南三陸町－台湾交流事業

支援への感謝の思いを伝え続けています。
南三陸町。生徒・学生の受け入れを通じて、
復興支援を機に交流事業が始まった台湾と

支援を受けたことを機に台湾との交流事業が始まる

東日本大震災で町全体が壊滅的な被害を受けた宮城県南三陸町。震災後は全世界から温かい支援を受けましたが、特に台湾からの多額の寄付により、町内唯一の公立病院を再建することができました。この支援に応えるため、2014年には町長をはじめとする関係者が台湾を表敬訪問。さらにこの支援を将来にわたる相互交流につなげ、感謝の気持ちを思い続けること・お礼を伝える機会を作ることを目的に、台湾インバウンド事業が始まりました。

町民との交流を通じた記憶に残る教育旅行

教育旅行の受け入れは2015年から始まり、現在までに1,000名を超える生徒を受け入れています。特に人気のプログラムは「民泊」「震災学習(生命教育)」「手作りプログラム」。これらのプログラムで、生徒は東日本大震災から得た経験や教訓を学びます。参加した生徒の多くは、甚大な被害を受け

ながらも力強く前進する町民の姿に感動し、民泊体験では、1泊だけの交流にも関わらず、帰りには双方が別れを惜しみ、涙を流し抱き合う例も少なくありません。生徒は町民との交流によってかけがえのない思い出を作り、互いに縁を結び合っているのです。

語学とともに震災復興を学ぶ インターンシップと語学研修

2016年からは台湾の大学で日本語や観光を学ぶ学生を対象に、2ヵ月間のインターンシップの機会を提供しています。町内宿泊施設や南三陸町観光協会で観光業に携わりながら、日本のサービス業や地方の暮らし、文化の理解、日本語スキルの向上をめざすプログラムを体験します。

また日本語学習に興味のある台湾の高校生・大学生に向けて、南三陸をフィールドにした日本語研修旅行も提供しています。2週間の滞在期間中に、語学研修や学校交流、職場体験、ホームステイなどを通じて実践的な日本語習得を目指します。

これらの事業では語学の習得のみならず、命の



台湾の感謝記念碑



地元の人たちとの飾らない触れ合いが忘れない絆を育む

大切さや地方創生への理解など、震災を経験した町ならではの経験を得ることもできます。

問い合わせ先
南三陸町観光協会
TEL. 0226-47-2550
mail : post@m-kankou.jp
web : <https://www.m-kankou.jp/>



震災学習～語り部による学びのプログラム～

震災前の町の様子、震災当時の被害状況や避難の様子など、今も町に住む語り部自身の体験談などを伝え、生徒一人ひとりが防災・減災への意識を高めることを目的としたプログラム。震災当時、中高生だった若手ガイドの手配も可能です。



所要時間 75分～150分
定員 10～120名
※120名以上の場合は別途ご相談ください
※講話とバス案内の入れ替え制等
ご提案いたします
学生料金 (高校生以下) 講話+バス案内 20名まで
1団体16,000円、
20名以上1名800円加算

手作りプログラム～タコロン絵付け体験(陶器)～

南三陸町の名産品であるタコをモチーフにした軽く小さい陶器のタコロンを、水性マーカーで塗る体験。デザインや色が自由で自分だけの個性豊かな作品ができます。文化祭などではとても華やかな展示となります。



所要時間 90分
定員 1名～150名
※150名以上の場合はご相談ください
料金 1名820円
服装 汚れても良い服装
※ペンキやマジックで洋服が汚れる場合があります

民泊体験

農林漁業従事者、民宿経営者、商工関係者など様々な家庭で受け入れを行います。震災を経て、住む場所があることがどんなに大切かを知り、前を向いて生きる町民との交流によって、人とのつながり、命や家族の大切さに触れます。



定員 1家族3～6名 ※最大80名まで
(時期や予約状況により変動)
料金 基本ステイ(15時～翌10時)
1泊2食6,500円
期間 通年
※新型コロナウイルスの影響で現在民泊体験は中止しています。ご希望の方はお問い合わせください。

おすすめ
プログラム

※料金は全て税別(2021年3月現在のものです)



53

仙台市・松島町－教育旅行事業

幅広い学びを得ることができます。
東北最大の都市である仙台と、観光名所の松島。
2ヶ所を結ぶコースを設定することができます。

仙台・松島を巡る 多彩な体験学習プログラム

宮城県の中央部に位置する仙台市は、多くの企業や高等教育機関が集まる東北の経済・学術・文化の中心都市。東日本大震災では市の沿岸部が津波により甚大な被害を受けました。沿岸部にはその被害状況や震災からの教訓などを伝える施設や体験プログラムなどが整備されています。

一方、260あまりの島々が美しい景観を形成する松島は、瑞巌寺や五大堂など歴史的価値の高い建造物も多く、日本三景のひとつに数えられる観光名所。そうした名所は海岸部に集中していることから、東日本大震災の津波で甚大な被害を受けました。しかし全国から訪れた多くのボランティアや観光関係者の努力でいち早く復旧を果たし、観光客を招き入れることができました。

仙台と松島は車移動で約40分の距離にあるため、2ヶ所をつなげて教育旅行のコースを設定することができます。

仙台市内でバラエティに富む 体験学習コースを設定

仙台市内では、震災学習をはじめ、歴史・産業・文化などに触れる多彩な体験学習の選択が可能です。たとえば震災学習なら、市内の高等教育機関で学ぶプログラムがあります。世界トップクラスの災害研究を行う東北大では、災害科学国際研究所を会場に、災害科学の専門家による講義とワークショップを行っています。震災学習以外では、賑やかなアーケード商店街でのショッピング、仙台の礎を築いた武将・伊達政宗公の足跡を巡るまち歩きなど、さまざまなコースが設定できます。

同世代や語り部と交流する 松島での体験学習

松島での体験学習は、地域の人との交流によってより印象深いものとなるでしょう。高校生による松島観光案内プログラムでは、松島高校観光科の生徒たちが松島の観光名所を案内。地元高校生の視点から見た松島の魅力的なスポットと一緒に巡ることで、

生徒同士の楽しい交流が生まれます。また、松島湾の島々を巡る遊覧船に乗って自然の造形美を楽しむとともに、語り部が震災当時の経験や復興の歩みを伝える松島の復興を学ぶプログラムも用意されています。

仙台・松島の教育旅行で 積極的な体験学習を

仙台・松島を対象とした教育旅行プログラムは、ジャンルが豊富でどれも生徒が積極的に参加できるよう設定されています。学校の目的に合わせて、多様な学びを検討してみてはいかがでしょうか。

問い合わせ先
みやぎ教育旅行等
コーディネート支援センター
TEL:022-265-8722
FAX:022-211-2829
mail:m-kyouiku@miyagi-kankou.or.jp



震災学習に加え歴史・文化、
街歩きなど、多彩なプログラムが体験できる



松島高校の観光ガイド

仙台市内まち歩き



おすすめ プログラム

おすすめスポット



仙台城跡

伊達政宗公が築いた城跡。高台にあり、仙台市街を一望できます。巨大な石垣や政宗公騎馬像も見学できます。



せんだいメディアパーク

建築家の伊東豊雄が設計した公共施設。ガラス張りの建物には、図書館、ギャラリー、映像スタジオなどがあります。



アーケード商店街

仙台市街中心部を結ぶアーケード商店街には多数の店舗が並び、飲食やショッピングが楽しめます。



東北大

日本を代表する高等教育機関のひとつ。震災学習プログラムを設定しているほか、学術資料標本を展示する博物館の見学ができます。

仙台市内の移動手段

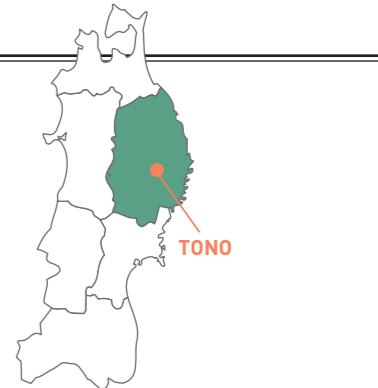


るーぶる仙台

仙台市内中心部のおすすめ観光スポットを循環する観光バス。一日乗車券を呈示すると沿線施設で特典が受けられます。

仙台市営地下鉄

南北線と東西線が仙台市内を結んでいます。地下鉄のみ、またはるーぶる仙台と共に一日乗車券が便利です。



54

遠野市 – 農村体感・民泊体感事業

基幹産業である農業を主体に、地域全体で無理なく楽しく受け入れを行う岩手県遠野市の民泊事業。季節に応じて多様な農業体験ができます。

“民話のふるさと” 岩手県遠野市の概要

岩手県を縦断する北上高地の中南部に位置する遠野市は、内陸と沿岸を結ぶ交通・産業の要衝として栄えたまち。その地理的環境を活かし、東日本大震災では後方支援の拠点としてさまざまな役割を担いました。

市内は四季折々の田園風景が美しく、古くからの伝統を受け継ぐ祭りや郷土芸能が盛んに行われています。また、民俗学者の柳田國男がこの地域に伝わる伝承や逸話をまとめた説話集『遠野物語』で知られる“民話のふるさと”もあります。

イタリア・サレルノ市、アメリカ・チャタヌーガ市との市民交流など、国際交流も盛んに行われており、遠野の先人である伊能嘉矩が台湾の民族調査を行い『台湾文化志』を著したことから、台湾に親しみを感じている市民も多くいます。

生徒も受入農家も皆が楽しめる 民泊体験

遠野市では、体験・体感型教育旅行の需要の高

まりなどから、2006年に「遠野民泊協会」を発足し、行政・関係団体と連携を取りながら体験・体感型教育旅行の受け入れを行っています。受入農家は水稻栽培、野菜栽培、林業などに従事しており、参加校の希望を尊重しながら、農作業内容やアレルギーなどの状況により、各農家3~5人の受け入れを行っています。

受け入れにあたり、生徒が「楽しい!」「来てよかったです!」という感想を抱けるよう、受入農家側にも様々な配慮がなされており、無理のない受け入れを継続させるため、各受入農家は週1校のみの受け入れとなっています。受け入れを行う登録農家は約140戸ありますが、どの世帯も受け入れを楽しみ、出会いを大切にしたいという思いで受け入れに臨んでいます。

遠野の民泊受入実績と受入体制

遠野市における教育旅行受け入れは、毎年10校前後で推移しています。最大受け入れ人数は200名程度。遠野市単体で120名を受け入れ、近隣市町との共催によりさらに80名程度を受け入れる体制を整えています。

民泊を行う場合、「特定非営利活動法人 遠野山・里・暮らしネットワーク」が窓口となり、登録農家が加盟する「遠野民泊協会」が受け入れ先を決定します。また遠野市観光交流課と連携し、安全に関する指導・講習会の開催、開村式・閉村式のサポート、使用施設提供などをしています。

農業体験と地域の人との交流が 人格・人間関係の形成に寄与

遠野での民泊では、農家の暮らしぶりをありのままに体感します。農作業だけでなく、食事作りや後片付けなどもその一環。生徒はそれらを通して家族団らんのあたたかさや農家の生活サイクルを体感し、さまざまな想いを胸にします。そこで生徒一人ひとりに宿った気づきが、人格・人間関係の形成を促し、帰国後の成長につながることが期待されています。

問い合わせ先

特定非営利活動法人
遠野山・里・暮らしネットワーク

営業所:遠野旅の産地直売所 TEL:0198-66-3543
本部:TEL. 0198-62-0601 mail: tourism@tonotv.com
web: http://www.tonotv.com/members/yamasatonet/



民泊体験

定員 200名(各家庭3~5名の受け入れ、遠野単体120名+近隣市町共催受け入れ80名程度)

料金 1泊2食まで9,000円
1泊3食10,000円
半日(昼食づくり体験込)4,000円

服装 農作業を行うので、替えの衣服、靴(長靴)をご準備ください

遠野市での民泊は、遠野民泊協会に登録する約140戸が受け入れを行います。農業を生業とする世帯が多く、民泊中は農作業を中心にさまざまな体験をすることができます。

※民泊先の指定は不可

主な体験



通年

- ・郷土料理づくり
- ・昔話と方言講座
- ・野山を散策



春から秋

- ・田んぼの仕事(4~7月)
- ・種まきや苗植え(4~6月)
- ・川遊びやピオトーピー観察(7~8月)
- ・木工や陶芸
- ・わらやつる細工
- ・草取り、草刈り(5~9月)
- ・ブルーベリーの摘み取りや選別(7月)
- ・夏野菜の収穫(6月下旬~8月)



秋から冬

- ・秋野菜の収穫(9~10月)
- ・米の収穫(9~10月)
- ・まき集め(10~3月)
- ・落花生加工(冬期間)

その他体験・イベント

- ・南部行列(春)
- ・遠野まつり(秋)
- ・小友裸参り(冬)
- ・遠野ふるさと村で各種体験
- ・馬の里で乗馬体験
- ・林業体験



55 八戸市 - 種差海岸における教育旅行体験プログラム

震災学習など、多様なプログラムが体験できます。
青森県八戸市の種差海岸。自然との触れあいや

絶景の宝庫「種差海岸」を教育旅行の目的地に

青森県八戸市を代表する観光地のひとつ、種差海岸。北はウミネコの繁殖地で有名な無島から南端の大久喜まで、約12kmの表情豊かな海岸線を形成しています。北部は荒々しい岩肌の磯が続きますが、その南側の大須賀浜と白浜は美しい砂浜となり、特に大須賀浜は、砂の上を歩くとキュッキュッと音が鳴る“鳴砂”で知られます。さらにその南側には波打ち際まで天然の芝生が自生し、美しい景観が広がっています。また海岸全域に貴重な海浜植物、高山植物が咲き乱れ、“花の渚”としても親しまれています。

そんな美しい種差海岸も、東日本大震災では津波の被害に遭いました。現在はかつての景観を取り戻しましたが、当時の経験を語り継ぐ学びの場、多くの人々が自然とのふれあいを楽しむことができる場として「三陸復興国立公園」の一部に指定されています。また、同公園と時を同じくして創設された日本一長いトレイルコース「みちのく潮風トレイル」の起点にも指定され、自然の恵みと脅威、海とともに生きる地域の人、そこに伝わる生活文化や地域社会の営みを歩いて体感することができます。

多様な植生と生物の様子から自然の恵みへの理解を深める

自然、震災、地域文化等、さまざまな特色を併せ持つ種差海岸の教育旅行体験プログラムは、その方向性もバラエティに富んでいます。中でもおすすめなのは、自然観察を中心に設定したプログラムです。

この体験学習のねらいは3つあります。第1は、自然観察のための知識を得て、自然の恵みを楽しみ、自然環境への関心を高めること。第2は、動植物の生態や自然を守るために取り組み、自然との関わり方について考えるきっかけを与えること。第3は、第一次産業の大切さと自然からの恵みについて理解を深めることです。

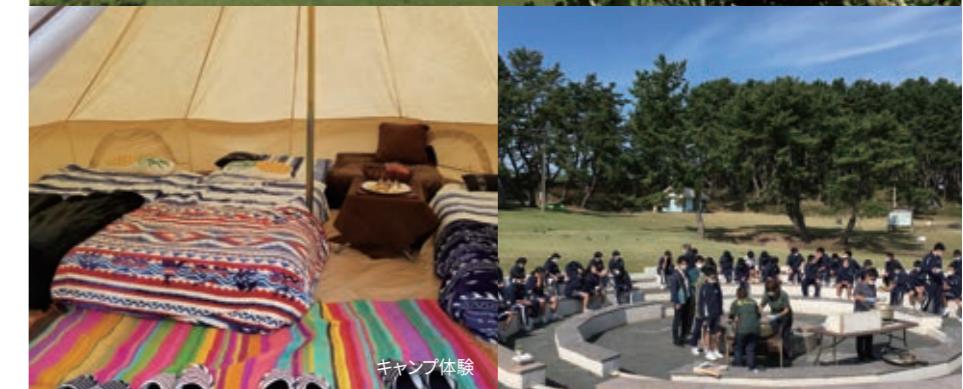
地元の方とともに磯を歩き、そこにすむ生物の生態を学ぶこと、ウミネコや海浜植物、高山植物等の動植物の観察を通して自然保護の事前保護の大切さを学ぶこと、夜になり満天の星空を眺め、宇宙の構造と季節の関係を学ぶこと。そのどれもが、生きた学習体験として生徒たちの心の中に深く刻まれることでしょう。

漁師の生業、食文化、震災体験を幅広く学ぶ

地元の漁師を講師に迎え、地域に根付く第一次産業、震災体験談、家庭で食卓に並ぶ漁師料理と地元の食材等について学ぶこともできます。時代が進むにつれて変わってきた海の生態系と自然環境の変化や、東日本大震災による津波で漁師小屋が流され、復興に立ち向かった経験は、毎日海に向かう漁師だから話せる貴重な内容です。また、鮭やイクラ、ホッキ貝、海藻、ウニといった旬の海産物のおいしさを食べて学び、食を通して季節と生物の関係等についても知ることができます。



天然芝が広がる海岸でトレッキングやアウトドア体験



キャンプ体験

問い合わせ先

株式会社ACプロモート

TEL.0178-38-8420
mail : info@acpromote.jp
web : http://acpromote.jp/



磯の生物観察



漁師と一緒に磯にすむ生物を探して観察します。生物の不思議と自然の大切さを知ることで、命を尊重する心を育み、自然環境への関心を高めます。

三陸復興国立公園トレッキングと漁師さんから学ぼう



種差海岸を散策しながら種差特有の植物、また無島ではウミネコの観察を行います。ガイドからは、津波被害等、自然災害に関するお話を聞くことができます。

星空ウォッチング



講師から星座や星の解説を受けた後、屋上で天体望遠鏡等を用いて星や星座の観察を行います。

地元の漁師から学ぶ



種差漁港の漁師から、漁に関する講義や震災の津波の話等を聞き、第一次産業や自然の脅威について学びます。お話を聞いた後は、漁師のお母さんたちが、獲れたての魚介類を使った漁師鍋をふるまいます。

おすすめ
プログラム

実施時期 4月～10月 場所 種差漁港奥の磯
所要時間 2～3時間 対応人数 応相談

実施時期 4月～11月 場所 種差海岸遊歩道
所要時間 3～5時間 対応人数 応相談

実施時期 通年 場所 種差キャンプ場
所要時間 1～1.5時間 対応人数 応相談

実施時期 通年 場所 種差漁港
所要時間 2～2.5時間 対応人数 100名程度